

京橋の印刷

12月10日 1990・No.78

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 552-1855

発行人
田島 弘



巻頭言 副支部長 近藤正弥

田島新支部長になって早や半年が過ぎようとしている。この半年間を振り返って見ると一つのみぐり合せ見たいなものをづくづく感じていく。その一つは「組合創立百周年」の記念事業に参画したことである。百年に一度という気の遠くなるような記念事業にぶつかつたということは大きな巡り合せの一つであり、一期一会として大変名譽なことだと思っている。

私は物事を歴史的に見ることにしているが、例えば日本の近代史の中でも明治維新から現代までの歴史の中で明治維新に遭遇した各人物像、或は暗い話として第二次世界大戦に突入した時の世界の人物像、太平洋戦争突入時と終戦時の天皇陛下と総理大臣等やまた明るい話では、講和条約締結や皇太子御成婚時：平成天皇のご即位といった時の任にあつた総理大臣は、これをどう受け止めていただろうかと思うことがある。

それと比べれば京橋支部の役員は大変小さな事かも知れないが、田島新支部長に与えられた二年間の任期を一期一会として、宿命としてはまた因縁として受けとめ、立派に相勤めることが大事だと思つている。それには、各副支部長、各地区長、各幹事、各監査の絶大なるご協力をお願いする他はないと思つています。よろしくご支援をお願いします。

“中央区産業文化展” 開催

於・日本橋プラザ

10月18日(木)から23日(火)迄の6日間、丸善裏の日本橋プラザ入口広場と同ビル3階の展示会場の広いスペースを使って、第1回中央区産業文化展が開催されました。今まで行なわれていた工業展の時のように好天に恵まれて、午前9時30分より、オープニングのテープカットが、矢田中央区長、児玉中央区工団連会長の挨拶につづいて行われ、参会の来賓・招待者が続々と入場しました。三階の展示会場では入口左側に繊維産業のファッションコーナー、右には伝統工芸の工具や、その実演、その次に機械金属のモデルプラント模型、左側はNITのPRコーナー、そして一番奥には中央区工団連加盟の印刷・製本コーナーの展示が、東印工組日本橋・京橋両支部、及び東軽工・中央支部による文字入力から、製版、印刷に至るプロセスが図示されて、富士通(株)の各種入力機器、カラーコピー(リコー)、製版機(大日本スクリーン)、シール印刷機(モトヤ)、カード印刷機(ハマダ)、1色印刷機(ハマダ)等々の印刷関連機器を順次並べてデモストレーションし、中央には印刷ビデオ(明日を創るメディア)を放映して、地場産業の印刷業の発展ぶりを紹介しました。又、各種年賀ハガキ、年末年始、及び年間予定表入

りのポスター(コマ、凧、ひつじ、つつじの4種)を印刷して参観者に配り、小学生から大人まで好評を博しました。又東印工組PR誌プリンティングメディアも配って、印刷業界のPRにとめました。製本コーナーも、箔押し、製本教室、和本綴じ、マールブル巻き等々の実演にいつもながら人気を集めて人だかりとなっていました。次にUターンして、広告業界による明治・大正・昭和・平成と年代別の各種広告ポスターが壁面に貼られて、これも熱心に見入る人が続いています。出口近くには、戦後の我国のCMビデオが放映されたり、当時の世相、時の移り変りを想い出させて熱心に見入るビジネスマンでいつも盛況でした。出口を出ると朝日新聞社の「新聞の出来るまでの写真展示やビデオの放映、そして、誕生日の新聞“のコピーが一部250円で売られており、盛況を呈していました。その他別室ではコンピュータ占いによる金銭・健康・事業運等の占いコーナーも開かれて無料サービスしていました。1階にある正面広場ではテント張りの知床脂の即売コーナー、そして漫画家による自分の“似顔絵テレカ“が人気を博して、朝から閉会時間の6時迄、常に列を作って、順番待ちの人で賑わいました。今

回の産業文化展は初めての各種産業による催しのため、5月頃から実行委員会を開いて準備したが、会場能力等についても順調にゆかず、開会が心配されていましたが、中央区、商工課及び各実行委員、設営を担当した(株)電通の方々のご苦勞により盛会に終了出来て何よりでした。入場者数約5万人、内小学生参観18校一三〇〇人を数え初日にはNHKテレビが昼のニュースで紹介し関東各地から和本綴じ等興味のある人々が来場したりで、今迄の工業文化展に比べて大成功でしたが、その中で、印刷分科会として中心となって活躍された、東軽工・中央支部(株)アートレイアウト原田啓治氏に感謝すると共に、各社へ協賛金や用紙の無償提供に走り回られた、東印工・日本橋支部長河北幹生氏に敬意を表すと共に、各実行委員、及び当番に動員された、京橋支部各地区長並びに幹事の皆様方にお礼を申し上げます。

尚、当日は別室で開会式後に来賓や協賛メンバー・実行委員をまじえて祝賀レセプションが開催されて無事開会できた事を祝い児玉委員長がお礼をのべました。

(編集委員)

写真説明

上段・富士通、リコーのコーナー。
中段・カラーコピー機と製本教室の人気。
下段・印刷コーナーでは各種ポスターを進呈。



東印工組組織委員会

新加入運動によせて

「加入してよかった」

築地地区

近藤 正弥

十数年前のことである。帰社すると、総務部長と工務部長が、やゝ青ざめた顔で私を迎えた。「何事？」と聞くと、「労働基準監督署の手入れです」と答えた。「何事も悪いことをしている訳でもないのに手入れとは大げさな」思つて聞くと、工場の隅々をよく見て回わり、事務所では就業規則の提出を求められたというのである。そこで、出た結論は、

一、工場内に従業員用の休憩室を早急に設置すること。

二、三六協定について、従業員代表との協定調印書を早急に監督署に提出すること。

の二点が改善命令として文書によって受けとつた。三六協定はなんとかなるにしても、休憩室を早急に設置する件はむずかしい話であつた。しかし監督官は有無を云わせなかつたのである。智慧を働かせ場所を探し何とか作つては見たものの、何となく腑に落ちぬものがあつた。誰かにさされたのかと聞いて見ると、答えなかつた。そして「こういうことは印刷組合に入つていれ

ばわかることだ」という返事が返つてきた。場所を聞き早速加入することにした。

京橋支部という下部組織と更にその支部を支える地区組織があることがわかつた、そして地区の人々との最初の交際は、年一回の懇親旅行であつた。バスの中で「新加入社」として紹介され、支部員としてスタートを切つたのである。

初めのうちは何もわからなかつたが、時の地区長と幹事の皆様が親切に、組織、年中行事、賦課金、例金、総会、健康保険の加入等々メリットについて説明があつた。そしてあれから十数年、印刷業界が新しい時代に向つて大きく転換して行く姿を振り返つて見た時は今更ながら加入してよかつたと結論づけている。それをまとめて見ると次のようである。

一、大きなものは印刷会社を経営するにもつとも大事な情報を得ることができないことである。それは何かといえば、活字からワープロへの転換が思つたよりスムーズにできたことである。加入したことによってワープロメーカー数社が見えたが、当社に見合つた機械を導入した。その四ヵ月後に震度四の地震が夜中に起つた。極くわずかに残した馬は活字が全部飛び出して使用不能であつた。工務部長はこの時、

「社長、ワープロに切り替えてよかつたですね」と胸をなでおろしていたが、加入していなかつたら、当分開店休業となつていただろう。加入していたからメーカーの紹介もあつたのだと感謝している。この他この間に、監督署の有機溶剤に対する指導を受けたり、時短時代に対する対応とかいろいろなメリットを享受した。あの時加入してなかつたらと思つと、それは論を待たないだろう。

「誘われて」

近所の A さんは同業のよしみもあつて、組合とは関係なく交際がありました。それは、釣りに行つたり、ゴルフに誘われたり、時には赤ちようちんで飲んだりした程度の交際でした。ある時 A さんが、「組合に入らないか入るといゝるメリットがあるよ」と云つてくれました。しかし、私は組合に入つてもメリットもないと考へて断わり続けていました。しかし、A さんはあきらめずに何回も誘つてくれました。

ある時従業員がケガをして多額の治療費をとられました。何でケガなんかしたんだとウサバらしに行きつけの赤ちようちんで一杯やつていました。そこへ A さんが見えて、「何だか元気がないようだね。どうしたの」と聞くので、「実はうちの工員がケガをして多額の治療代を払わされたのですよ」当時は健康保険組合に入つていなかったものだから「公傷」のことも知らなかつたのです。そうすると、A さんは「組合に

入ってれば健保にも入れるし、そうした時に大変助かるよ」と早速手続きをしてくれました。そして、地区の方方の交際の中からいろいろなことを学びました。私は賦課金をうんと取られて馬鹿／＼しいという話を聞いたことがたりましたが、実際とは大部違っていました。そこで気がついたのは「組合とは弱小業者がお互いに助け合って行く組織だ」ということでした。

このあといろいろの事を教わりました。労働基準監督署の指導によって就業規則を整備したり、工場への労働対策を教わったり、新しい時代に向っての対応など、厳しい環境の中を生き抜いてきたのも、組合に入ったからだと思っています。今、Aさんにつくづく有りがたく感謝しております。「Aさんどうもありがとうございます」(匿名)

印刷組合に入るメリットは、同業者間の情報交換がやり易くなり、又つき合いを通じての作業交流が出来て仕事がかどると共に、いろいろな考えの人と交わる事により、趣味や遊びの面でもお互いに楽しめると思います。又印刷健保の各種保養施設が格安で利用でき、組合主催各種の研修会を自由に選択して受講できます。積極的に組合を活用する事です。未加入の方に是非、加入されるよう呼び掛けをお願いします。

(組織委員)

旬を解さぬ初もの

日刊食料新聞 7/5日付

▼いまごろ「食通」はもういない。環境がこれの存立を許さない様変わりをもたらしたからだ。食通の存立には少なくとも「シユン」「そのものの味を生かせる料理人」「そして、この味を識別する舌」の三つが前提となる。「シユン」とも「昔気質の料理人」ともとうの昔にさよならし、加えてみんなが「俗舌」になり下がった昨今に「食通」なんてある道理がない▼第一回文化勲章受章の幸田露伴(慶応三年11月16日昭和十二年11月19日)の食通ぶりは大変なものであった。江戸時代からの老舗「八百善(現在も数寄屋橋松田ビル地下で営業)」が眞眞の料理屋であった。ある年の四月中旬、その八百善で鰹の刺身と出会った。

眉間にシワを刻んで見入っていた露伴は、やがて堰を切ったようにこう板前さんに憤激をぶつつけた。「なんだい、板さん、これは？、半月から一カ月早いじゃないの」▼板前が弁解する「けさ魚河岸に入ったばかりの初ものでして」も彼には通じなかった。露伴にとっては初鰹かどうかよりも「シユン」が問題で、また、そのシユンの素材の重みを度忘れた料理人の心得違いが問題であった。「アバヨ」と、著をつけずに去ったことは触れるまでもない▼一年のうちに一回しかない「鰹の食べき」に露伴はかたくなにこだわったというのである。これを逆にいえば、「まだ味の乗らない初もの」への手きびしい批判ともいえる▼トキ知らずのトキサケのように、周年出回るのならばそれらしく、「トキ鰹」「トキ節」と、注釈を付さなければウルサ型には通じそうもないというお話！。(妙竹輪)

「京橋の印刷」広告募集

当京橋支部では、業界の推移、技術や営業の情報交換など組合員の結束を図るために、支部報「京橋の印刷」を刊行しています。就きましては時節柄誠に恐縮ですが、協賛広告にご応募くださいますようお願い致します。

協賛広告掲載料金

- 一段 天地 五〇耗
 - 左右 一四五耗
 - 半段 天地 五〇耗
 - 左右 七〇耗
- 一回につき金五千元

図案・版下作成は実費頂戴いたします。

東京都印刷工業組合京橋支部

関連業界及び支部員の方のご利用をお待ち致します。
電話 552-1855 迄、よろしく。

地区だより

築地地区

互友会の研修旅行

有意義だった製紙会社の見学

〓 九月八日～九日

旅に出て一番気になるのは雨である。ましてや団体旅行となると、幹事にとって雨程憎いものはないということになるが天の配剤ではどうしようもない。しかし、晴天が二日続けば幹事の顔が弁天様にも見えて来る。

今回の研修旅行は幹事の顔がまさに弁天様に見えた。従来の旅行に工場見学という少し味付けをして計画立案したので尚更であった。折角旅行に行くなら印刷に関係のある施設を見学するのも一興という訳で、途中にある「日本加工製紙高萩工場」を研修をかねて立ち寄ることにした。八時四十分熊谷印刷前を出発、好天の常盤高速を時速九十キロでひたすら走った。前後左右に車がないということは運転手にとって実に気楽なことであった。途中小雨がパラついて来たが話に夢中になって気がつかなかった人もいた位だからいいことはない。しかし、一行の常連だった川俣、川橋両先輩は病気で姿なく、また若くして不帰の客となった山中さん。旅行ががちあつて不参加の布施さんなど一抹の淋しさはあつたがその穴を埋めるに

ふさわしい人材も揃って二十人、にぎやかさは変わりなし。

やがて昼食が近づき、最初の停車地高萩インターを出る。そして、ビーチホテルで昼食を摂る。ビーチホテルと名のとおり、裏側が海岸で太平洋が一望できた。食堂から眺めた裏庭は、子供用プールに続き七コースある五十メートルプールの先が海岸であった。海岸には高い波が押し寄せていたが、人っ子一人いなかった。土曜日というのにホテルはガラガラ。着物の展示会に数人の姿と、隣室でカラオケを声高く流すのが聞こえる位であった。実に静かだ。沖合に貨物船が二隻、漁船らしき姿が一隻見えるだけであった。展望台から眺めても変わりなし。砂浜にも人影もない。九月に入って八日の土曜日だということにどういふことだろう。好天がもつたない。さしみと天ぶらがメインの昼食の箸をとる。食欲は一同旺盛である。きれいに平らげてあとは散歩など。玄関で記念写真を撮る。そして、いよいよ目的の一つである製紙工場の見学。この工場の案内役は朝西紙商事の近藤営業部長が発発以来ずっと一諸だった。丁度予定の時間どおりに工場の門をくぐる。工場幹部の出迎えを受けて会議室に入る。寒い位に冷房の効いた会議室で小杉工場長の挨拶と工場の歴史と現状について説明を受ける。まずビデオで工場のシステムを見る。チップを煮て繊維を取り出し、漂白して、製紙となる工程が写し出された。約十五分ばかりであった。そしていよいよ見学だ。イヤホンを渡され、工場内部は熱気

で暑いからと上衣とネクタイ等は、はずして行くよう指示を受ける。そしてヘルメットを渡され、担当の井口課長の後から続く。イヤホンがあるので説明がよく聞きとれる。

まず途中のチップの山を見ながら工場へ向う。チップは繊維の部分と紙となる部分に分ける最初の工程はボイルから始まる。タンクの中でボイルされるのがどうなっているかわからないが、やがてその工程は部厚いネンドのふとん状となって送られて来る。そして漂白されて、牛乳



状の姿となって何度か精製されてやがて最後の工程に向かう。精製された液体が、一〇〇メートルのドラムの中を一気に走る姿は製紙工場の中でも絵になる。五メートル巾の濡れた薄い帯がごうごうと音を立て猛烈なスピードで進む姿は製紙工場ならではの圧巻である。やがて乾燥ドラムを抜けるとコート紙のロールとなって最終工程へ向う。この百メートル近い工程がわずか五人で管理されているというから驚きだ。あとは光沢をつけ裁断され百枚単位で包装され、出荷を待つばかりとなるのである。日常何気なく使用している者にとっては大変な勉強となった。わずか二時間でわかつたつもりはないが、終ってミーティングルームでの質問は、製紙工場での設備の大型化、高速化、廃水処理の問題などに活発な質問が飛び出したが、現在の製紙生産が、需要の多様化により、極めて厳しい状況にあることなどが小杉工場長から話され一同うなずいた次第であった。

今回の研修会のテーマは「新たな時代を生き抜く業界計画」をもとに経営意識の改革、新規需要の開拓、新技術の研究という一大テーマの中の工場見学と相なった訳だが、その意味では大変有意義な見学会であったといえよう。

工場長以下お世話になった方々にお礼を述べ、チップの山をバックに一諸に記念写真を撮る。この計画を立案した今竹地区長を始め幹事諸兄に新めてお礼を述べたい。

工場を後に一路今夜の宿であるいわき温泉、湯本温泉ホテルに向かう。途中順調で午後四時



に着く。すぐ温泉につかる。旅の疲れがとれるようで気持ちが良い。案内によれば千年の歴史のある温泉だという。やがて宴会に入る。長老加藤氏の音頭で乾杯。いつもより若手が多いせいか、ムードが盛り上がる。歌うことしか知らない芸者のダジャレも混ってやがてカラオケとなる。一年振りともなれば話もはずむし、気持ちもゆるむ。そして飲む程に酔う程に夜は更けて行く。やがて時間がきて、神田さんの大メで宴会を終える。

翌朝はホテルを出て「いわき石炭化石館」に寄り、化石を見ながらいわきの歴史を学び、炭坑のモデルを見ては高萩炭鉱の歴史と、坑内夫の生活の様子には涙を誘われた。そして改めて日本の産業の発達史の中に位置づけられた炭鉱の様子を知り、犠牲者を思い冥福を祈る。是非小・中学生をお持ちの父兄には、見学をすすめたと思った。

バスは順調に走る。次は「美空ひばり」が残した歌で一躍有名になった塩屋崎岬へ寄る。にわか観光地だからバスの駐車場も狭いし一杯である。岬の灯台に登る。螺旋式階段を登り望楼に出て一周する。太平洋が一望千里というべきか。おだやかな海である。高さ二十七・三メートル、海抜七十三メートルと標示してあった。長い歴史の中で、どれ程多くの船に光明を与えたか図り知れないと思いを至る。ふと小学唱歌「灯台守」を思い出す。単調な生活の中沖行く船の航行を安じながらガラスをふき、電球をチェックする姿を想像していたら故佐田啓二と高峰秀子が出演した映画「喜びも悲しみも幾年月」の場面がオーバードラップしてきた。

灯台を降りて故「美空ひばり」の記念碑の前に立つ。ファンと思われるご婦人方が大勢押しかけ、記念碑の前で手を合せたり、写真を撮ったりする中、ひばりの歌が流れてきた。何となく物悲しく感ずるのは私だけだろうか。塩屋岬に別かれを告げ帰途に着く。日曜日とあって大変空いていたので予定どおり午後四時築地に着き解散。

(近藤記)

新富地区

市ヶ谷地下壕見学・納涼会

8月28日(火)

今年の夏は記録的な暑さで、残暑も一段と厳しく長かったが、研修・納涼会は例年通り開催された。

集合場所は陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地の正面入口、参加者17名は午後3時、暑さに辟易しながらも多忙な時間を割いて元気に旧陸軍参謀本部地下壕を見学させていただくべく参集した。

まず初めに一同が案内されたのは資料室、ここは戦前旧陸軍士官学校のあった所で、当時の武器、衣服、写真、書簡などが展示されている。市ヶ谷台の歴史、建造物の説明を係官からうけたのち自由に展示物を見て廻り、20分後に全員それぞれ思いを胸に屋外に出た。東京裁判や三島事件などの舞台となった白壁の一号館の前に立ち止まり説明を聞いていたところ、突然大つぶの雨が降り出して来た。そこで逃げるように地下壕へ続く湿ったコンクリートの階段を降りていった。

戦時中の陸軍の中核となったこの地に、1トンの爆弾に耐える壕が造られたのは昭和17年のことで、総面積千二百平方メートル、木造部分は取り除かれているが土台部分に当時の間取りがしのばれる。コンクリートの天井から下がっている錆びた鉄筋や井戸、トイレ跡などが今なお残り、裸電球に照らされて生々しく、地下の冷気が我々をつつむ。

戦争指揮の指令が発せられた壕の一室。20年8月10日未明ボツダム宣言受諾の御聖断。御前会議の模様を、閣議から帰った阿南陸相は、ここに幹部を集めて伝えたと云われている。G HQに接収された一時期、彼らもこの地下壕を使ったそうだが、この壕をみて何を考えたのであろう。

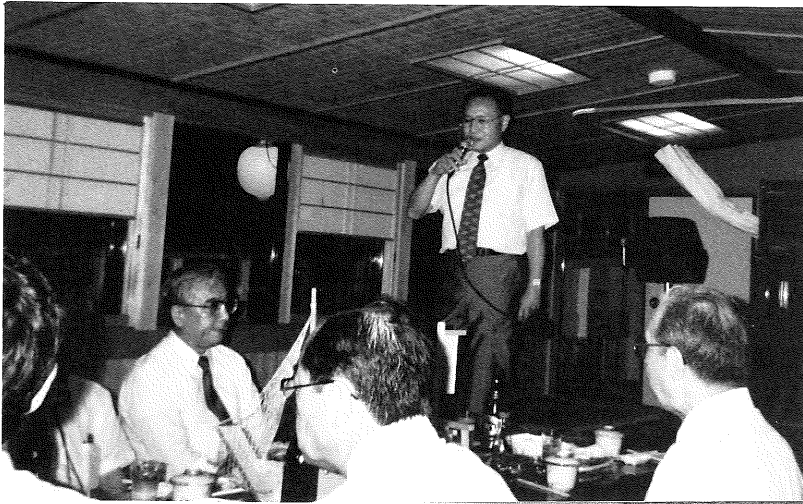
この市ヶ谷に六年後六本木の防衛庁が移転してくるそうで、今ある数々の建物は姿を消すが、地下壕も取り壊されるとのことである。今回の見学はオカムラ印刷・宮入常務のお骨折りで実現できましたが、参加者各自、昭和史を思いおこしたひと時であった。

いまだ雨は激しく止みそうもない。5時になったので仕方なく売店に傘を買いに走ったが急場しのぎの傘は売り切れ、二人で一本の傘を差して身体半分仲良くぬれながら市ヶ谷駅まで歩き小岩駅へ、さらに駅前のバスに乗り納涼会場の「たかはし丸」へと目ざす。10分程で小岩大橋のたもと、新中川に浮かぶ屋形舟が見えてきた。ちようちに照らし出された舟は情緒がある。真新らしく、思っていたより大型だ。

いつしか雨も止み、予定時刻の六時に一同乗船、畳や障子も新らしく、トイレは水洗で清潔レーザーディスクカラオケの設備もある。70余人乗りとのことで、ゆったり席に着いた。

すでに卓上には料理が並べられているが、これから7時までには研修会で、一人3分間の講話を行なうことになっている。予め会員に配布されていた研修会の説明によると、テーマは自由

で、私の健康法、趣味、私の生き方、経営理念、人手不足、労働時間の短縮など、各自得意な話をとのことであるが、「キラリと光る話を聞かせてほしい、ご準備をよろしく」とある箇所に



プレッシャーを感じた人もいたようだ。

いよいよ講話が始まった。座席順に話はずむ。3分の持ち時間をオーバーする人も多い。戦争体験談、健康の話、社員募集の効果的な方

法、ゴルフ上達法、経営の話など、体験・経験談として話された。質問も飛び出す。さすが経営者、きらりと光る話が聞けた。ビールで喉をうるおしながらではあったが、それぞれ何かキーワードを握んだことと思われる。

舟は江戸川を下り浦安に出た。錨を下ろし、いよいよ宴となった。デイズニールランド、ホテルの夜景を海から眺めるのも一興、カラオケも始まった。納涼会にふさわしく海風が通り抜ける宴席、突然火花が上がった。デイズニールランドから 8 時 30 分に打ち上げられる夏の風物詩である。盃を片手に舟べりからの花火も良いものだと思う間もなく終り、それを合図に錨を上げ帰路についた。江戸川を上りながらも宴はなお盛り上げる。

日頃のストレスを解消し、和気あいあいと暑さを忘れた納涼会であったが、天婦羅を土産に下舟後解散となった。

今回の研修会は概ね好評で、会員の講和から今後のテーマを見つけ、セミナー、講演会などを企画するよう役員が検討している。新富地区会は親睦プラスαの会合になったようである。

(木島記)

銀座地区

納涼会

八月の例会は、夜の東京湾をクルージングするヴァンテアン号で海の上の素敵なひと時をすごし、シーフード料理を賞味しました。

初の試みとして日頃協力いただいている奥様

に感謝の意味でお招ねきましたところ、会は非常に盛り上がり、明るい笑声につつまれ好評裏に終りました。

ピングで景品が出、ワイン、ビールにほてった頬を汐風がなで、外国人船員と生バンドを聴きながらの遠くの夜景は外国航路の雰囲気浸るに充分、素敵な夜を味わいました。一室借切ってシーフード料理を楽しみました。

(小西記)

湊地区

台湾旅行記

毎年秋に行っている湊地区の懇親旅行も、回を重ね国内は北海道、九州を除き殆んどの名所旧跡を尋ねたことから、三年程前から一度は海外旅行にしたらとの声があり、昨年から今年の旅行は連休を利用して台湾旅行を企画して十一月一日から四日までの三泊四日の旅を実施しました。

十一月一日午前六時三十分、出席者十七名全員鉄砲公園前に待機しているバスに乗り、成田空港へ向う、空港で出国手続を済ませ、日本アジア航空 E-G 201 便に搭乗一路台北に向う。

午後一時十分無事中正国際空港に到着、入国手続後出迎えの専門バスにて台北市内を観光する。当地のガイドは台日旅行社の呂さんという五十歳位の男性で話術が巧く話題が豊富で、これから先の旅が楽しみになる。台湾到着の第一印象は、思ったより暑くなく凌ぎやすい、街中

あらゆる所に中華民國の国旗がはためいていて驚かされる。国威宣揚のためと思うが日本ではとても考えられないことだ、街の中はスクーターが溢れていて自転車は少ない。自動車も多いがみんな汚れていて掃除などする気配は全くない。

近代的な高層ビルが林立する反面一般民家は暗く汚い感じだ。専用バスで国内線の松山空港まで行き午後四時四十分遠東航空 119 便で一泊目の高雄へ向かい午後五時二十分高雄到着漢王大飯店で海鮮料理の夕食をとる。海鮮料理は新鮮な魚介類を専門にした料理で、どの店も店内の水槽で泳いでいる魚介類をその場で調理してくれるので新鮮そのものだ。高雄市は人口 132 万の台湾第二の都市で台湾南部の観光と商工業の中心となっていて、近代都市の中で見かける伝統的な建築物、街路を飾る大王椰子の並木が南国の雰囲気を出している。夕食後高雄で有名な夜店を見学する。一年中徹夜で営業していると云う夜店街は一般大衆の食事の場所、いろいろな食品を売る店が軒を連ねていて一寸説明のつかない状況の場所である。夜店を見物した後第一夜の高雄國賓大飯店に投宿、各人個室に入り旅装を解く。

十一月二日午前八時ホテルにて朝食後専用バスに乗り高雄市内及び郊外観光に向かう、最初は至近距離にある寿山公園に登る、寿山公園は別名万寿山公園ともいわれ、海拔 365 米の頂上からは、高雄港と市街を見下ろせる絶好の場所である。寿山公園を後に 7 km 程のところにある澄

清湖に行く。この湖は高雄工業用水池と飲料水の水源地になっている人造湖で、中国の西湖八景を模して造られている。昼食は素朴な家庭料理の味の台湾料理を味わう。午後二時十分高雄空港から東部の花蓮に向かう、四十分程で花蓮に到着、タロコ峡谷の観光をする。花蓮は東部最大の都市で、大理石とアミ族の踊りで有名である。舗道に敷き詰められた大理石が印象的な街であり、市内にいくつもある大理石工場では大理石製品が安く購入でき。タロコ峡谷は、台湾最大の景勝地で、峡谷全体が大理石である垂直に切り立った断崖のはるか下方に立霧溪の急流が青く輝き、その迫力に圧倒される。峡谷はタロコから天祥まで約20kmも続き、いたるところに奇岩怪石や滝が見られる。今年は台風の直撃にあい巨岩が流され相当の被害であった。宿泊先の統帥大飯店で一旦旅装を解き、夕食後アミ族の踊りを観賞する。アミ族は高山民族の一種族で、男女とも踊りの名手である。ここでは午後2回、夜2回のショーが毎日見られる。カラフルな民族衣装と大きなアクションが魅力的で、日本語のアナウンスもされる。

十一月三日朝食後午前十一時十分花蓮空港を離陸、三十分程で台北に到着、バーベキューの昼食後国立故宮博物館の参観に向かう。

台湾観光の最大ポイントともいうべき故宮博物院は、中国五千年の歴史と文化、芸術の集大成の場ともいえましよう。フランスのルーブル米国のメトロポリタン、ソ連のエルミタージュとともに世界の四大博物館のひとつになっている。

る。新石器時代の出土品から歴代王朝への献上品など70万点あまりのうち、一般に展示公開されているものは、常時約二万点で、主なものを除いては、三ヶ月ごとに入れ替えられる。馳け足の参観でも二時間かかり、ゆっくり見ようとすれば幾日かかっても見終ることがないと思われる。故宮参観後、疲れを癒す夕食は北京料理である。ビールでのどをうるおし、こつて



りした味つけで、油もたっぷり使った肉料理で満腹になる。レストランで夕食後、宿泊先の統帥大飯店で第三日の旅装を解く。

十一月四日、いよいよ最終日である。朝食後台北市内の観光をする、最初は忠烈祠の観光である、忠烈祠は中華民国建国以来、革命のために殉国した軍人や志士、二十数万の英霊をまつてあり、本殿には写真や銅像が陳列されている。制服に威儀を正した衛兵が立番しており、衛兵交替の時の模様は、英国のバッキンガム宮殿の衛兵と同じように、機械的動作の行動は目を見張るものがある。次に故蒋介石総統の記念館である中正記念堂を参観する。中正記念堂は故蒋介石総統の高徳を讃える為に建てたもので、広大な敷地の中に、記念堂、公園、大アーチ、音楽堂、劇場などがある、記念堂は高さ七十メートルの純中国式建築で、正面には高さ六メートルの蒋介石総統の銅像が全国民に仰がれている。蒋介石総統は若き日、日本の士官学校に学び、第二次世界大戦で日本が敗戦した時、「暴に報いるに暴を以て為すべからず」と布告し、中国大陸の日本軍人を円滑に帰国させたことは有名である。市内観光後中正空港に向かい出国手続後、午後三時五十三分日本アジア航空278便にて一路東京へ、名残り惜しい台湾を後にする、午後七時四十分予定通り成田到着、迎えるバスに乗り湊町の出発点に到着、四日間の楽しい旅を無事に終ることができた。

(中山英男)

支部の動き

7月12日(木)部長・監査・地区長会、於・築地市場内、磯野家、会費一万円

1、本部事業推進について協議事項

- ・百周年記念事業の表彰について
- ・対象候補者、印刷産業功労賞96名、印刷組合功労賞64名、印刷組合貢献賞198名、印刷組合振興賞5名の計363名(7/4現在)
- ・記念パーティー出席組合員の依頼方法、パーティー券(一万七千円)発行
- ・百年史刊行本の配送について
- ・配送案―支部配送し各組合員へは支部へ任せる(400円を本部より補助)
- ・本部より各組合員へ直送(約500円必要)
- ・構改調査と事業者台帳の実施について
- ・両調査とも電算化を図り、今後の事務処理の簡略化を行うので最後の手書き調査となる。11月末締切
- ・外国人労働者の雇用に関する調査
- ・全組合員へ直送、7月20日〆切
- ・全印工連「印刷業の見積原価計算方式」講読希望について、1冊は各社へ配送
- ・日印産連印刷月間記念行事への参加
- 9月5日(水)、帝国ホテル、16時

2、支部提案事項

- ・小企業問題に対する提案

- ・生命共済の配当金と振込手数料、付随する事務費用の負担について
- ・構改調査等のコンピューター化について

3、報告事項

- ・生命共済手数料の支払方法について
- ・支部一括―9支部、各事業所振込―9支部、未定4支部(振込手数料負担)
- ・印刷手帳の製作販売について、600円
- ・需要開拓情報誌「虹」の購読料徴収
- ・組合年間行事予定
- 4、当面する本部事業について
- ・物故者慰霊祭―9/4(火)築地本願寺、11時
- ・敬老の集い―9/6(木)、明治神宮参集殿
- ・百周年記念式典―9/20(木)、17時記念式典
- ・記念パーティー券、京橋支部105枚割当
- ・印刷文化展(大阪)―9/13(木)、30年勤続従業員表彰の該当者申告
- 5、当面する支部事業について
- ・支部名簿の発行―協賛広告募集中
- ・支部報の発行―現在組版中7/25発行予定
- 6、新年臨時総会日程、2月8日(金)予定
- 箱根湯本温泉を予定
- 6、中央区産業文化展準備、展示品交渉中
- 7、委員会報告について
- 7月17日(火)中央区産業文化展実行委員会、於・中央区役所
- 7月19日(木)本部署理事会、於・セントラルプラザ

7月20日(金)京橋電気安全協合理事会、於・京橋消防署

8月8日(水)中央区産業文化展印刷関連分科会、於・支部室、田島支部長他実行委員会出席

9月3日(月)中央区産業文化展印刷分科会、於・日本橋プラザ3階、出展メーカーと懇談

9月3日(月)中央区産業文化展第3回実行委員会、於・中央区役所8階

9月4日(火)物故者慰霊祭、於・築地本願寺

9月6日(木)本部敬老の集い、於・明治神宮

9月18日(火)中央区産業文化展第4回実行委員会、於・中央区役所8階、田島支部長他出席

9月19日(水)同印刷分科会開催、於・京橋支部室

9月21日(金)同印刷分科会開催、於・京橋支部室

9月27日(木)臨時部長会、於・箱根湯本・天成一

新年臨時総会会場下見及打合せ、会費1万円。5名出席

10月4日(木)本部支部長会、於・印刷会館4階、田島支部長出席

10月4日(木)中央区産業文化展各分科会代表会議、於・京橋支部室、PRデモの打合せ

10月11日(木)中央区産業文化展実行委員会、於・中央区役所、最終搬入予定等協議

10月16日(火)部長・監査・地区長会、於・支部室

1、支部長会報告事項本部事業推進について

・永年勤続従業員表彰の実施について、11/10、新橋演舞場、39名を表彰予定

・平成3年新春のつどいの実施について、1/14(月)、椿山荘、会費一万三千元

・賦課金徴収規定について

第 1 四半期については資金繰りの関係上

3 月に暫定額を請求、4 月納入とする

・生命共済加入キャンペーンについて

・加入増強目標設定、京橋支部 103 社加入

・構改事業について

・電子編集・印刷システムの研究普及、

参加申込社 25 社

・「電子編集機の選択」購読希望 1 冊 206 円

・「東京の印刷」表紙写真について

・来年も支部よりの写真提供でいく

・組合員に対する支部配送物アンケート

2、報告事項

・組合百年記念事業の報告

9 / 4 (火) 物故者慰霊祭 548 名、9 / 20 (木) 記念式典 700 名、同パーティ参加 1500 名

・第 14 回有機溶剤資格取得講習会

9 / 25 ~ 9 / 26、60 名受講、第 2 回労働安全衛生者養成講習会、11 / 7 ~ 11 / 8、

ディックビル

3、支部提案事項、教育委員会の充実化

4、当面する支部事業について

・支部名簿の発行 | 11 月初日発行予定

・関連広告 53 社、支部員 14、地区 2

・支部報の発行、12 月初め、新富築地担当

・新年臨時総会会場、箱根湯本、徒歩 15 分、

ホテル天成園、会費支部員 2 万円、関連業者 3 万円の予定。130 名を予定

・臨時総会日時 2 月 8 日 (金)、16 時開会、田

島支部長挨拶、前期役員へ感謝状、記念

品の贈呈、新年宴会は、小唄、カラオケ

大会等を予定

・支部幹事会、11 / 22 (木)、築地スエヒロ

・中央区産業文化展の出張当番について

午前 10 時 ~ 13 時、午後の部 13 時 ~ 18

時、各地区 2 名宛、弁当支給

5、委員会報告について

・その他、新年総会行、往路小田急特急券

10 月 18 日 (木) ~ 23 日 (金) 中央区産業文化展開催、

於・日本橋プラザ、本文参照

10 月 30 日 (火) 産業文化展印刷分科会、於・支部室

支部員の異動

脱退組合員

・ニード印刷 (有)、田村平太郎殿 (9 月)

・(株) 国際印刷、河野秀衛殿 (10 月)

・(有) 東栄印刷、大久保栄殿 (11 月)

・コクダイ印刷 (株)、大嶋八十三殿 (11 月)

・尚分堂印刷 (株)、一乗道雄 (11 月)

所在地移転

・ユイ・エダ (旧名江田印刷、新川地区) は、

千代田区九段北 4-3-22、ドクターズビル

3 階へ移転しました。電話 5276-1460 です。

慶 事

・日本浮出印刷 (株) 植木重光殿が御結婚 (4 月)

・(有) 小西商店印刷所社長長女小西美圭殿御結婚 (9 月)

お悔み申し上げます

・(有) ミナト印刷社社長御母堂、中村きく殿が御

逝去されました。

・松川印刷 (株) 会長松川勝次郎殿が御逝去されま

した。

・渡辺製版印刷所社長渡辺都紀夫殿が御逝去され

れました。

編集後記

今年も早くも 12 月となり押し詰って来ましたが、暖冬気味のせいかな今一つ年末の気配が感じられないようです。本部では中央区産業文化展の開催に苦労を重ね、やっと終了して、”ほっ”

としている状況です。今年は印刷業界も人手不足解消のため、社員の週休二日制に移行したり、

新卒確保のため、従業員寮を作る等他業界との調整に大わらわの所もあると聞きます。又、

人手不足による事業縮小等もあり、いよいよ人材で勝負する時代へととなって来たようです。

印刷組合の諸事業に参加し、人材育成等に積極的に活用される事がのぞまれます。

さて今号は、中央区産業文化展の特集となりました。もっと写真を多くをのせたいのですが、

誌面の都合で掲載できなかったのは残念です。

次に東印工組織委員会の組合員新加入増強運動へお誘いと記事、そして今回は地区だよりの充実した文章を、各地区より提供いただきましたので、各地区の活動ぶりが伺われます。